

# ぎんまい長岡京

長岡京吟詠会 会報

第55号 令和5年9月1日

発行 長岡京吟詠会  
会長 本庄賀秀峰

## 高橋拓来君が財団全国吟詠コンクール近畿地区大会幼年の部で準優勝!!

指導者 高橋賀秀正(おじいちゃん)先生の談・・・『全国吟詠コンクールでは声、流れ、音程、アクセントなどバランスの取れた吟が高得点につながるので、弱点の低音部を響かせる事と詩文を丁寧に吟じることによって吟じらるるに指導して来ました。強敵揃いですが当日の出来はひよっとしたかと思っていました。(本人は4位くらいかと思っていたそうです)全国決勝(東京)に出させて貰う事ができ、すごいなと感動しています。』(広報部)



## 私と詩吟の出会い～わが恩師の思いで～

古谷賀秀翔

18歳の時から、合唱団で経験を積み、地区の会館で老人クラブコーラスグループを立ち上げ、懐かしい歌で楽しんでいました。同会館で故中江先生が詩吟教室を開催されており、熱心に誘ってくださり、先生が師範になられたのをきっかけに私も詩吟の道に入りました。

白髪交じりのオカッパ頭の先生に「本選に通らなかつたら髪切ってね」と冗談交じりに笑いあってから数日、刈り上げてこられたのにはびっくり! 「先生ハンサムー!!」とひやかしたものでした。

大会にはすべて出場、とくにコロンビアが好きで、準優勝や入賞を繰り返しているうちに「俺のところに来い」と千阪先生からお声がかかり、中江先生に相談。「千阪先生にお預けします」とのうれしい言葉を頂きそれから千阪先生の教室に通うことになりました。教室ではあまり吟はせず、漢詩の意味を習うことが多かった思い出があります。

昭和が平成に変わるとき、昭和をもじって「翔和詩吟クラブ」を創り、故桐山さんを筆頭に多い時は18人の仲間と詩吟を楽しみました。9本の音で指導して下さった千阪先生、吟の世界に誘って下さり5年もの間指導して下さった中江先生、そして多くの詩吟の仲間たちに感謝しております。

第五小学校の『すすく教室』から横山先生のおかげで育てられている松尾芽郁ちゃんや若い人たちが育っている今日。益々の賀堂流と長岡京吟詠会の発展を祈っております。

## 歴史探訪吟詠野外研修を実施します!!



新型コロナで中止を余儀なくされていましたが、4年ぶりに令和5年度歴史探訪(吟詠野外研修)を計画しました。皆様、奮ってご参加ください!!

- ・日 時・・・11月10日(金) 10:00～15:30(予定)
- ・訪問先・・・桜井駅跡史跡公園「楠公父子訣別の所」  
水無瀬神宮  
淀川三川合流域「さくらであい館」(展望塔)など
- ・移 動・・・マイクロバスをチャーターします
- ・昼 食・・・和風レストランでの昼食交流会

詳細、募集案内は改めて皆さんに各教室経由で行います。  
歴史探訪実行委員会

## 加茂川納涼祭りに参加して 米山賀秀琳

8月6日(日)京都府詩吟連盟初参加の加茂川納涼祭りに棉生結実先生の詩舞の添吟で「嵐山に遊ぶ」を吟じさせて頂きました。

コロナ禍で中止が続き、今回は久しぶりの開催の為か外国の方を含め凄く沢山の人が歩けない程でした。

京都三条と四条の間、右岸に色々なお店が並びその中央付近に立派な舞台が作られていました。提灯と紅白の幕に彩られとても素敵な風情でした。

私たちは最後の出番でしたが、ちょうど雨が強くなり大変でしたが無事終わることができ、府連の先生方にもとても喜んで頂きました。この様な大きなお祭りに参加させて頂き良い経験になりました。



## 私の吟詠剣詩舞人生 その5(最終回)

佐藤凱涼仙

昭和57年8月、主人の転勤で小学校1年生の長男、2歳の次男、私の母と5人で長岡京市に引っ越しました。

主人の会社で、大阪のマンションと長岡京市緑が丘の家を紹介してくれ、私は折角関西に行くのなら断然京都!と長岡京市に決まったのでした。

私は節目・節目に素晴らしいめぐりあわせがあり、おかげで賀堂流様との40年ものお付き合いが始まったのでした。これまでの長岡京吟詠会様とのお付き合いは私の人生にとって忘れることのできない大切なものとなっています。会員として長くお付き合いいただいた皆様や長岡京吟詠会の皆様深く御礼申し上げます。

最後に、私が鈴木凱翁先生から師範の免状を頂いた時にいただいた言葉をお送りして締めくらせていただきます。

『自分を育ててくれた流派への御礼、恩返しは、自分が腕が良いならコンクールで入賞して名を上げること、そうでない人は会員さんを増やして流派の名を上げること』長い間お付き合いいただきありがとうございました。これからも神刀無念凱山流 京都凱涼会をよろしく願いいたします。

R5/9・10月の予定

- 9/10(日)【吟道賀堂流第31回吟士権者決定大会】  
姫路 あすかホール
- 9/10(日)【京都府連創立60周年、  
京都府総連創立45周年記念祝賀会】  
ホテルオークラ
- 9/17(日)【愛連一部決勝大会】  
尼崎アルカイクホール
- 9/24(日)【後期京都本部資格認定会】
- 10/1(日)【愛連二部決勝大会】  
尼崎アルカイクホール
- 10/25(水)【定期発表 2】  
長岡京こらさ
- 10/25(水)【長岡京吟詠会吟士権大会の審査員研修会】  
(事務局)

シリーズ【詩吟と空手】その2 尻枝賀秀道

空手道の基本知識 その1

今回は、私が 50 年続けている「空手道」についてお話をさせていただきます。

「空手道」とはどんなものか その1

①「空手道」は、沖縄で発達した武道で、拳足が剣に代わるものとなります。

「空手道」では礼法を正しくすることが大切で、相手を打つというより、自分自身の心を正しくすることを最重要課題として修練します。

②「空手道の精神」は、平和の精神に通ずるもので、絶えず基本術技から形、形から応用術技へと反復修練し、地道で、血の出るような正しい修練を積み重ね、「人に打たれず、人を打たず、事なきを基とするなり」の心情を貫くものです。

したがって、修練に当たっては「礼に始まって礼に終わる」空手道の精神を体得し、己の心と拳を正し、相手を打つというより自分自身の心と拳を正しくすることにその精神があります。

③「空手道の礼法」は、座礼と立礼が用いられます。

座礼は、相互に正座し、相手の目に注目して、身体を前に曲げたら、両膝の前に両手を八の字型に置き、前額を両手の上30センチぐらいのところまで下げ、礼を交わして元に戻ります。

立礼は、相互に直立不動の姿勢をとり、両手を両ものわきにつけ、相手に注目して身体を15度ぐらいに曲げて礼を交わしてから、元に戻して相手に注目します。

「空手道」は、基本、立ち方、姿勢、腰の使い方(腹筋)呼吸、目線など詩吟道と同じだと思います。詩吟も発声は腹筋を使い、声を前に出しています。そして姿勢を良くしてまっすぐ目線を前にして詩情を表現しています。ただ、発声練習だけは「空手道」にはありませんので、その辺は「詩吟道」の方が難しいと思います。



座礼の方法

詩吟の基礎技術 その12(最終回) 高橋賀秀正

■メリハリのある表現力豊かな発声

- (1) 1拍目から2拍目への移行は素早く立ちあげます。このとき1拍目を強く噛みつかないこと。(言葉が不明瞭になったり、渡りが生じ易い)
- (2) 1拍目は声をしっかり支えて口先で発声し、2拍目を少し押し気味に発声すると切れの良い、明瞭な言葉になります。
- (3) 2拍目が「ん」の発声は1拍目を発声後、すぐに口を閉じると鼻から「ん」が漏れ無アクセント気味になるので気を付けて下さい。
- (4) 詩句の最後の拍は節に入る大切な拍です。子音から母音へ移行しながら声を膨らませ、響きのある声を作ってから節に入ると息が長く続き、安定感のある発声が出来、節に緩急・強弱が付け易くなります。
- (5) 子音から母音への移行速度は詩によって変わります。叙情・叙景・哀愁を表現するときはややゆっくり膨らませ、アップテンポや臨場感を出すときは早めに膨らませて移行します。いずれの場合も声を膨らましながら移行させます。
- (6) 節の途中で音階が変わるとき、ポイントとなる音階で声を支え直すと上手く詠うことが出来ます。  
例えば、  
①上の大引下げでは、[シド・シ・ラ]・シ・ラ・ファ・ミの「ラ」で更に支えを作り、そのまま「ミ」まで降りる。「ラ」で息を始末しないでしっかり支えに使うと最後まで息が続きます。[望立山:我が 前に]  
②五言の承句や結句の下音節によくある「上げと引下げやゆり」の複合譜節では [ミ・ラ・シ・ド・ミ]の「ド」を発声したら素早く声を支え直して「ミ」を発声すると「ゆり」がしっかり詠えます。 [江雪:万径]
- (7) 譜節の最後は、原則しっかり押留めすること。押留めすることで吟に締まりが出てきます。また、次の詩句の溜めが作り易くなります。溜めを作ることで絶妙な間を作ることが出来ます。[望立山:只 雲煙] (特別な譜節では押留めしないで流す場合もあります。 [月夜三叉口浮舟:碧天に 向かって])
- (8) 詩の情景や意味により詩句の運びや読みのテンポに変化を付ける。



ほっと一息、休憩タイム

私、学校やめます！！

私は、明治に開校した瀬戸内海の見える山の分校に通いました。

運動会と卒業式は、本校での開催です。1~3年生が1クラスの複々式授業。姉たちを見て育った私には、授業は物足りません。「私、学校やめるわ。知ってることばかり」。父が言いました。「中学まで行かないと国から罰金来る」。罰金という言葉に弱かった私は、「じゃあ行くわ」と同調したものです。

姉2人が日舞を習い、私に教えるものですから、舞ながら通学していました。懐かしい思い出です。 横やん



『ぎんまい長岡京』 編集室  
編集委員長 尻枝賀秀道  
編集委員 市丸、櫻澤、後藤、宮小路  
※連絡・問合せ先 尻枝賀秀道  
Tel: 075-954-9092